

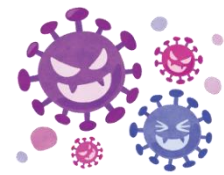
水いぼ（伝染性軟属腫）について

■ 水いぼとは？

- ウイルス（伝染性軟属腫ウイルス）が皮膚の中で増えて発症する感染症です。
- 子どもがかかりやすく、特にアトピー性皮膚炎や乾燥肌など皮膚のバリア機能が低下している子がかかりやすいです。
- ウイルスの抗体ができると再度かかることはないですが、十分な抗体ができるまで1～2年程度かかります。早いと6か月、遅いと3年程度で自然に治ります。

■ 水いぼってどんなもの？

- 真ん中が白く見える1～5mmの白から淡紅色のいぼ。
（白いところにウイルスが詰まっています）
- 身体中どこにでもできます。
軽いかゆみが出ることや赤く腫れて痛みが出ることもあります。



【当院の症例】



（10か月女児）



（3歳男児）



■ どうやってうつるの？

• 接触感染でうつります

直接触れなくても、水いぼを引っかいた手で触れたものを介しても感染します。

- 肌が露出した状態で肌と肌が接触する機会の多い水遊び・プール・温泉などで感染することが多いですが、プールの水ではうつらないのでプールに入っても構いません。ただし、**タオル、浮輪、ビート板などを介してうつることはあります**ので、これらを共用することはできるだけ避けて下さい（日本小児皮膚科学会、日本臨床皮膚科学会などの共同声明が発表されています）。
- 水いぼのある子どもさんが保育所や幼稚園などでプールに入れてもらえないという話を耳にすることがありますが、**感染防止の意義が低く、不要な指導であると考えます。**
- 水いぼがある部分をラッシュガードやばんそうこうで覆うことや、プールの後はシャワーで肌をきれいに洗うなど、適切な対策を行いながら子どもさんが楽しく行事に参加できるよう園や学校と連携していくことが大切です。
- 保湿剤で日々スキンケアを行い、皮膚をよい状態に保つことが予防として効果的です。

■ 水いぼの治療

- 一つずつピンセットでとったり、液体窒素で焼いたりする治療が一般的ですが、当院では基本的には水いぼはとる必要はないと考えています。しかし、遅い子では治るのに3年近くかかり、どのくらい増えるか、いつ治るかは医師にも分かりません。そのため、肌が露出する部分に多く見られご本人が気になるなどの理由がある場合はなるべく数の少ないうちに治療してあげるといいでしょう。

当院では銀イオン配合クリーム（M-BF クリーム）の外用や、漢方薬の内服（ヨクイニンや麻杏よく甘湯など）を用いて水いぼ治療を行ってします。

銀イオン配合クリーム（M-BF クリーム）



- 1日2回、朝と入浴後に塗布。
- 塗布開始から最短で2週間、通常2か月前後で水いぼのところだけが赤くなってきます。それが効果が出始めたサインです。
- 平均2～3か月程度で水いぼが治ると報告されています。（当院販売価格¥1980）

【当院症例での治療例】

症例：1歳5か月男児。左腕と腰背部に水いぼが増えてきて気になるとのことで来院。

当院受診時（治療前）：



銀イオン配合クリームを用いた水いぼ治療開始



治療開始約1か月後：患部が赤くなってきました。効果が出始めたサインです。



治療開始約2か月後：まだ赤い跡はありますが水いぼはなくなりました。



- 水いぼかどうか分からないけどブツブツがでてきた…
- どんどん増えていくので治療した方がいいか相談したい…
- 子どもが掻きむしって血が出てしまう…
- 夏になり肌が露出したところの水いぼが気になる…

・・・など気になる場合は診察時に一度相談して下さい♪

